

始まっています 地域内交流！

「次いつやるの？」その言葉が出れば成功！

「玉林寺 ふれあい・いきいきサロン」

「田植えがひと段落すると行われる農揚がり、秋には稻荷神社の例大祭、新年には初午祭など、玉林寺には、昔から連綿と受け継がれてきた伝統行事があります。そして、その伝統行事に合わせてサロンの行事も行っています」。そう語るのは区長で玉林寺いきいきサロン会長の小室邦人さん。

「農揚がりとは、かつて農家の人の慰労行事でしたが、現在は、地区内すべての人に声をかけてみんなで楽しめます。稻荷神社の例大祭も子ども会の秋のイベントと同時開催します。お母さんたちが、大鍋にけんちん汁をつくり、子どもたちは花火大会や肝試しなどで盛り上がり、初午祭では、大遊びと称して、皆で集まり、ごちそうを食べてカラオケなどを楽しみます」。



敬老会ではフラダンスが披露された

玉林寺は5つの班に分かれていて、班長がこれらの行事を行っている。班長になると必然的に参加する側から実行する側になるため、行事の内容や大変さもわかるようになる。そう、班長は1年交代のため、多くの人が行事運営にかかわることになり、結果として活発な行事運営につながっている。

「先日、うちの班の女性たちに声をかけ、集会所で、そば打ち会を開催しました。普段、1対1で顔を合わせることはあっても8軒ある班の女性たちが一同に会って顔と顔を合わせることはまずないのです。参加してくれた女性たちは、『こうして集まっておしゃべりできることが楽しい』と言います。そして、『次いつやるの』という声があがりました。これからも『次いつやるの』という声があちこちで聞かれるような運営をしていきたいですね。それから来てくれた人に『お世話になります』という言葉を書かせないことも大切です」と小室さんは話してくれました。

後日、そば打ち会の様子を玉林寺便りという広報紙に掲載したところ、他の班でもこうした集まりが開催されるようになったそうです。

毛呂山歴史散歩

文化財シリーズ217

新規指定文化財の紹介②

～川角の獅子舞～

毎年10月第3日曜日、川角八幡神社で獅子舞が行われています。川角の獅子舞は、町内に残る他の3つの獅子舞、2つのお囃子とともに、町の貴重な無形民俗文化財として平成23年3月22日、毛呂山町指定文化財となりました。

毛呂山の獅子舞のように一人が腰に太鼓をつけて獅子頭をかぶり、舞うものを「一人立ち」といいます。川角の獅子舞も大類の獅子舞と同様に3匹（頭）一組で、その内の1匹は女獅子、他の2匹の男獅子をそれぞれ「中獅子」・「法眼」と呼んでいます。

主な演目の一つである「女獅子隠し」という「庭」（演目のこと）では2匹の男獅子が女獅子を取り合うもので、初めは男獅子の内の1匹が女獅子を手に入れていますが、もう1匹の男獅子がそこに割って入るとします。この結末は3匹で共に



川角の獅子舞 川角八幡神社にて

舞って終わります。このように獅子舞が男女の恋愛を題材にする意味は、稲穂が実をつけ、稲の豊作もたらされることと男女の結びつきを同一に見る信仰の現れと考えられます。秋の祭礼で行われる毛呂山の獅子舞は、主に五穀豊穡を祈る意味が込められているようです。

川角の獅子舞では、子どもの獅子舞も古くから行われています。以前は、子どもの内から獅子の役が決まると、3人とも大人になるまで同じ役を続けたといえます。男獅子役は勇ましく、また荒々しく、女獅子役は柔らかな物腰で舞うなど、徹底して役作りをしました。

近年、川角地区では、10年後を見据え、30～40代の男性を中心に指導者としての人材育成を始まりました。川角の獅子舞では、子どもから若者、年配者までが一つとなって伝統行事を継承しています。